

映画「となりのとらんす少女ちゃん」 試写会&トークセッション

となりの
とらんす
少女ちゃん
©2024 めのむしフィルム

上映後、監督の東海林 毅 氏・主演の中川 未悠 氏を迎え、作品に込めた思いや制作の背景、作品と向き合う中で得た経験についてお話しいただきます。お二人のお話を通して、参加者のみなさんに「となりにいる誰か」を理解することの意味や、多様性を尊重し、ともに生きる社会について考える時間を過ごしていただきます。そこから、一人ひとりが身近な人との関わりや、自分らしく生きることについて考えるきっかけをお届けします。最後には、お二人へのご質問を受け付け、作品やテーマについてより深く掘り下げる質疑応答を行います。

登壇者紹介



東海林 毅 氏（監督）

本作品について

僕は青春映画が少し苦手です。なぜならそこに自分の姿がほとんど見当たらないからです。思春期、性的マイノリティの子供たちは部活や恋愛といった「普通の青春」を送る前にまず自分自身と向き合うことを迫られます。なぜ自分は親や友達と違うのか？自分は間違った存在なのか？と悩みながら、手探りで自分と社会を接続していく苦しい季節。突き放した言い方をすればそれが性的マイノリティにとっての「青春」なのかもしれません。この「青春映画」はそんな中学生だった自分に届けるつもりで製作しました。素敵な原作を提供してくださったとらんすさん、自身に問いかけるように丁寧に演じてくださった中川未悠さんに感謝申し上げます。コメディ映画なので皆さんぜひご笑覧くださいませ。

プロフィール

武蔵野美術大学在学中より活動を開始し、1995年 東京国際レズビアン&ゲイ映画祭にて審査員特別賞を受賞。バイセクシュアル当事者でもあり、商業作品を監督する傍ら映画を通してLGBTQ+と社会との関わりを探ってきた。短編「老ナルキソス」(2017)が国内外の映画祭で10冠を獲得、長編版をセルフリメイクし2023年に劇場公開。「片袖の魚」(2021)では日本で初めてトランスジェンダー当事者の一般公募オーディションを行い話題となる。2024年11月20日に「LGBTQ+差別に反対する映画監督有志の声明」を有志代表として掲出した。

中川 未悠 氏（主演）

本作品について

皆さんは過去に戻りたいと思ったことはありますか？私は何度も思ったことがあります。あの時、早く行動に移しておけば。とか、あの時、もっと勉強していたら。とか...タラレバを言ってしまったり。でも、きっと未来は自分で切り開いて行くことに意味があるんですよね。過去があるから今の私がいる。

この作品は悩みや葛藤を抱えながらも前に進もうとする主人公の姿に、私自身もたくさん勇気をもらいました。観てくださる皆様の未来に光が入り込むような作品です。

プロフィール

トランスジェンダーMTF当事者。俳優。21歳の時、大学在学中に性別適合手術を受け、戸籍も女性へ。その手術までを追ったドキュメンタリー映画『女になる』(田中幸夫監督)が2017年秋に全国で公開。その後、演技未経験ながらも2025年11月14日に公開された映画『ブルーボーイ事件』(飯塚花笑監督)の主演にオーディションを経て抜擢された。本作は主演2作目。

